

アジア太平洋戦争

歴史のコトノハ

昭和 6 (1931) 年の満州事変を発端として日本が満州国を建国し、中国への侵略を目的とした日中戦争へ発展しました。これを契機に昭和 13 (1938) 年に「国家総動員法」を制定し戦時体制を強化すると、アジア地域を西欧諸国の植民地支配から解放し、アジアの独立と日本を中心とする新たな支配秩序構築を目指して、日本は「大東亜共栄圏」の名のもとアジア侵略を開始しました。

昭和 16 (1941) 年 12 月 8 日、日本軍がハワイ真珠湾を攻撃し、太平洋戦争へ突入します。日本軍はアッツ島、サイパン島、硫黄島で玉砕、アメリカ軍による国内への爆撃から沖縄戦へ展開、そして広島・長崎への原子爆弾の投下を機に日本は降伏し、昭和 20 (1945) 年 8 月 15 日に終戦の日を迎えました。

秋田県内では、終戦間際の 8 月 14 日夜から 15 日未明にかけて、土崎精油所を標的とした土崎空襲があり、死者 250 人以上を出しています。



冬休日記帳 (昭和 13 年)

日中戦争中の尋常小学校児童の日記帳。表紙には戦争の絵が描かれている。内容には戦争に関する記載はまだあまり見られない。

(田宮利雄資料)



夏期心身鍛錬日誌 (昭和 14 年)

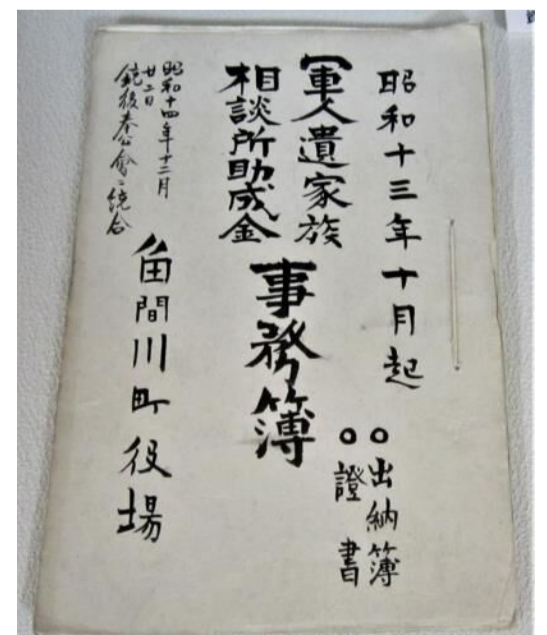
秋田県立大曲農業学校生徒の夏休みの日記。「冬休日記帳」と同じ人物が書いた日記だが、1年半の間に戦争の影が色濃くなっている様子がわかる。

(田宮利雄資料)

軍人遺家族相談所助成金事務簿 角間川町役場 (昭和 13 年～)

角間川の戦争遺族に対する相談所に関する文書。相談所は昭和 14 年 12 月 22 日に銃後奉公会に統合されている。

(角間川町役場文書)





配給事務簿（昭和18年）

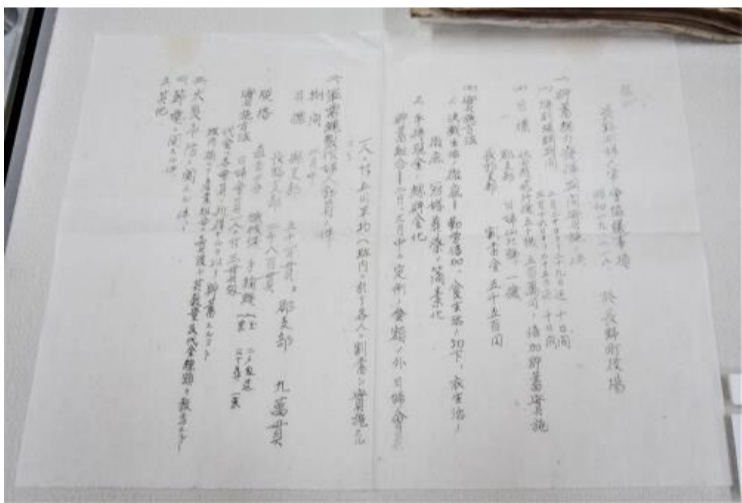
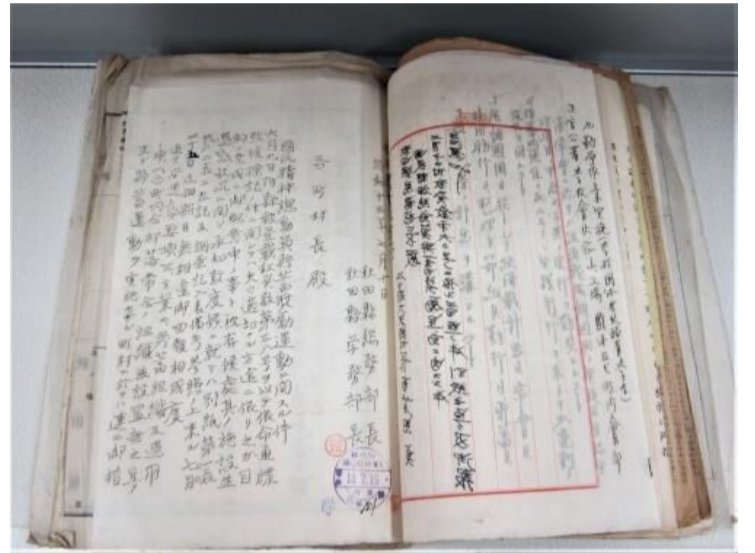
戦時中の配給事務に関する文書。砂糖などの食料品の配給のほか、雑貨についても配給制となった。

（大沢郷村役場文書）

国民精神総動員書類（昭和12年）

国民精神総動員貯蓄奨励運動についての通知が綴られている。町内会や部落会において貯蓄運動を実施するよう促している。この結果、大日本婦人会でも貯蓄運動が行われた。

（大沢郷村役場文書）



長野町婦人常会協議事項（昭和19年）

貯蓄総力発揮期間実施や、軍需繩製作婦人動員、大火災予防についてなど、長野町婦人常会での協議事項が記載されている。

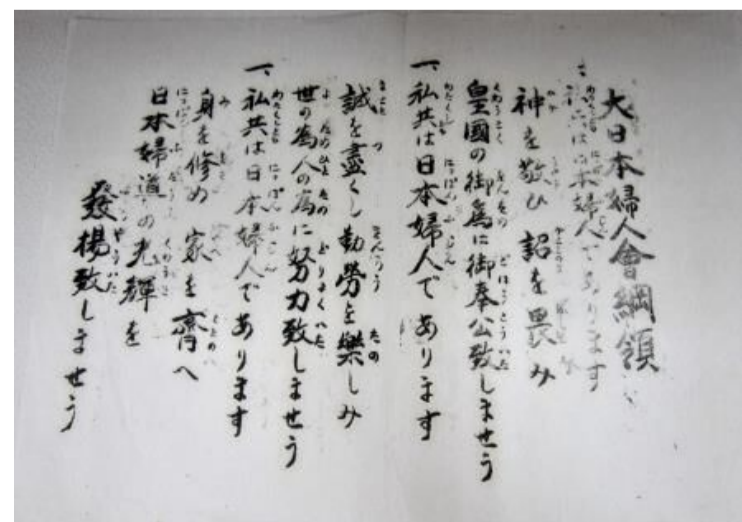
（平瀬家資料）



必勝貯蓄ヲ必要トスル一例図解（昭和）

戦時中の貯蓄によって、英米を撃滅する兵器や弾丸となることを図解・説明したもの。

（平瀬家資料）



大日本婦人会綱領（昭和）

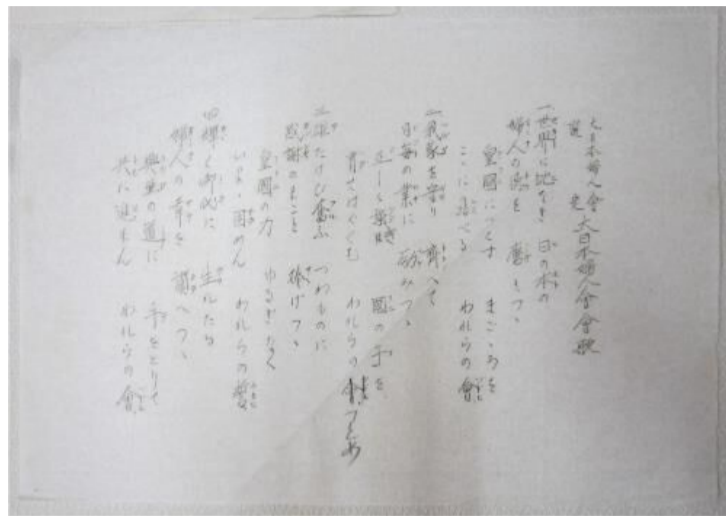
日本婦人として皇国のため奉公し、勤勞して世の人々のため努力し、日本婦道の光輝を発揮しようと言っている。

（平瀬家資料）

大日本婦人会の歌（昭和）

綱領の内容を歌詞にした大日本婦人会の歌が作成され、歌詞と楽譜が残されている。

（平瀬家資料）



班及び組のつくり方と其の動き方 大日本婦人会 秋田県支部（昭和）

戦時中の大日本婦人会の班や組の作り方や動き方について書かれた冊子。婦人会では班の下に組をつくって、国防に関する様々な活動を行っていた。

（平瀬家資料）



国防婦人会

個人所蔵（太田地域）



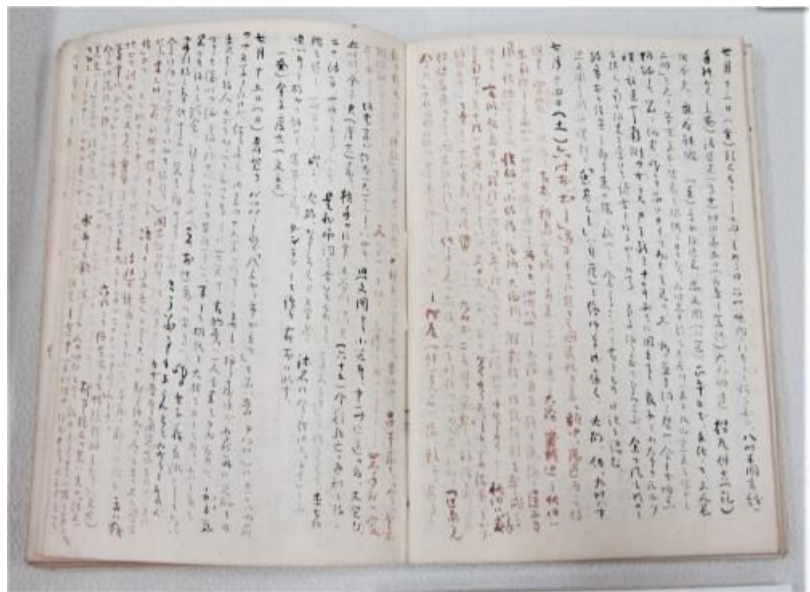
個人所蔵（太田地域）



庶務事務簿（昭和 18～19 年）

戦時中の村役場の庶務事務簿の中には、戦争で犠牲となった兵士の村葬に関する通知が多く綴られている。近隣の町村からの通知も見られる。

（大沢郷村役場文書）



田口松圃日記（昭和 20 年）

大曲町長を務めた田口松圃の日記。昭和 20 年になると戦争や空襲警報などに関する記述が増え、戦争末期になると戦争に関する記述部分は朱書きされている。

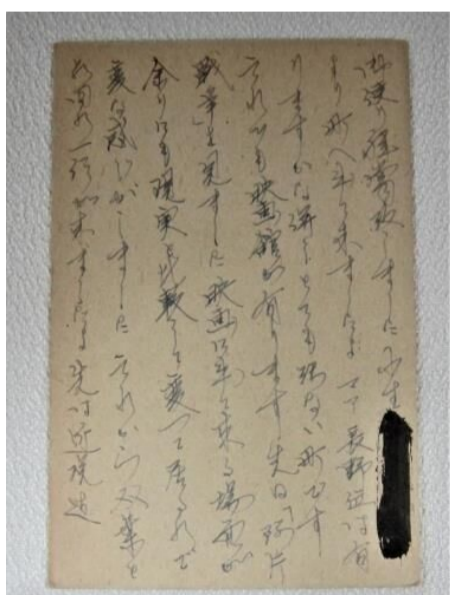
（田口松圃家資料）



渡部郁太郎日記（昭和 20 年）

南外村長も務めた渡部郁太郎の日記。終戦の日の記述には、天皇陛下の玉音放送や陸軍大臣の阿南惟幾の自殺に関する記述が見られる。

（渡部家資料）



軍事郵便（検閲）（昭和）

当時、戦地からの手紙はすべて検閲の対象となり、軍事秘密や不適切表現はすべて黒塗りされてから配達された。そのため消印もない。

（平瀬家資料）

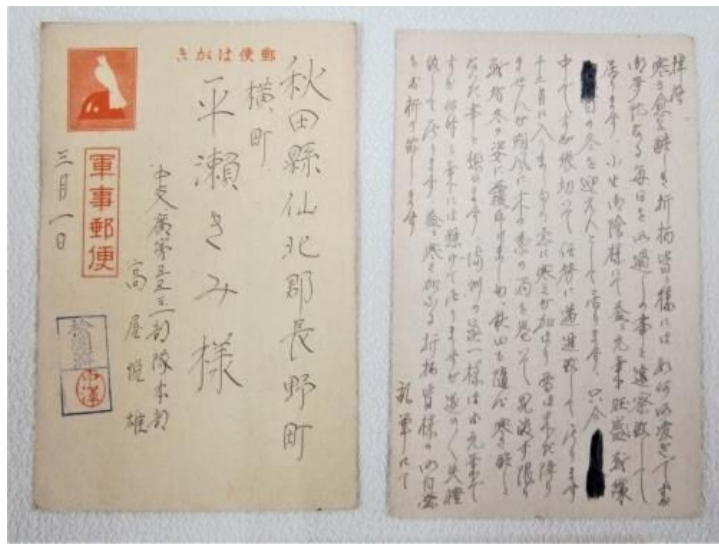


出征前の池田泰蔵氏 弘田池田家所蔵



池田家門前での記念撮影

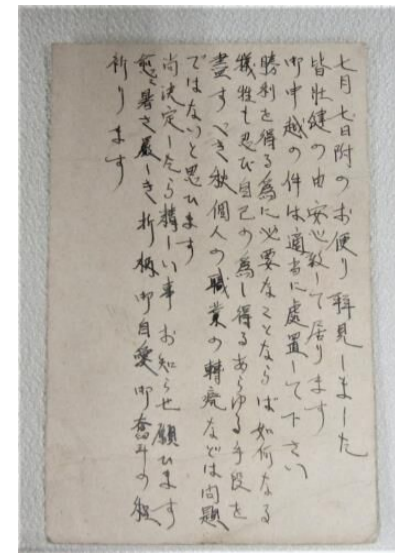
弘田池田家所蔵



軍事郵便（検閲）2通（昭和）

高屋悦雄から平瀬キミ宛の葉書。戦地の様子や、満州に出征中のキミの息子真一についても触れている。戦地の場所や日時などの軍事秘密は検閲後に黒塗りされている。

（平瀬家資料）



葉書（昭和）

平瀬真一から母キミに宛てた葉書。満州第442部隊が駐在していた中国吉林省からの軍事郵便。

（平瀬家資料）



書簡（昭和）

高屋悦雄から平瀬真一宛の手紙。真一が出征する前に、戦地から送られたもの。展示している日の丸と同じような日の丸を高屋も持って出征していることがわかる。

（平瀬家資料）



寄せ書の日の丸（昭和）

出征の際に友人などから寄せられた激励の寄せ書。日の丸を贈られて満州へ出征した平瀬真一は、終戦後、シベリアに抑留され亡くなっている。

（平瀬家資料）



平瀬真一氏（写真右）

平瀬家資料

終戦後シベリア抑留となり、そこで亡くなっている